夕刊 磐城新聞
二月五日發行
〔日曜祭日翌日休刊〕

東北地方振興卑見 三

衆議院議員 海軍中將 八角三郎

國家としてもこれを全體として取扱ひ、只必要に當りては寧ろ中央山脈によりて區分せらるゝ太平洋沿岸地方と、日本海沿岸地方の二地帶に分ち施設を講ずるを適當とし、彼の港灣の施設其他に於て屢々見る如き一地區に於て二港灣の施設を相爭ふが如き醜態を避け全東北地方を一體として國家の力を之れに注ぎ、從來蒙れる不幸より地方民を救ひ、國家として此の未開發の富源を開發し、國力の涵養は勿論、國家の發展に寄與すべきである

第六は、從來の教育、產業指導等の方針を此際再檢討し、其誤れるは之れを正し、根本方針を確立すべきである。即ち國家としては冷害其他天災に對する根本研究機關を設立し、進に根本解決に向つて指針は附與すべきである。又從來の教育は餘りに劃一に偏せるの結果、地方の實情に即せざるものあるは明なる事實である。殊に實業教育の如きは吾人をして言はしむれば教科書の教育であり、書類の教育であり、異なれる自然力に基礎を置く理論教育に非るなきかを疑ふものである。是れ東北地方が開發せらるべくして開發せられず、富むべくして富まざるの最大原因に非さるか。爲政者と云はず、教育者と云はず、先覺者は此の點に深く思ひを致し、地方の特異性を基礎としたる教育と產業の指導に當るべきものなりと信ず。是れ迂なるが如くにして實は根本にして最捷徑なりと思考す

○

第七は東北地方は常に我國の一隅たるの處を懷き、近時我國力の滿洲國に伸張するに伴ひ、漸く滿鮮との關係を考慮するに止まる如きは、我國將來の使命に顧み思はざるの甚しきものである。世界の大勢は交通の發達により日一日と世界を縮少しつゝありて、既に獨逸の資本によりて支那本部を基點とする歐亞の航空路は開かれんとし、又最近英蘭間の聯絡飛行は實施せられつゝあり、同時に又從來殘されたる問題たりし海蘭鐵道は、必ずや將來列强の注目競爭線となり、中央亞細亞を貫く歐亞の聯絡線たるべく、之れに京綏鐵道を聯絡せしめば、滿洲、歐亞聯絡二線の實現を見る決して遠きに非るべく、從つて津輕海峽は世界交通路の大動脈たるとするの日將に近からんとす。識者は須らく此の大勢を觀取して、今日より其施設に過なからんことを期すべきである。此認識を以て我東北に於て諸般の計劃と施設を進められんことを切望す。斯くして始めて東北は救はれ、東北は振興し、實に我國の發展の大原動力たり得べきである（終）

磐女校友會誌 かをりから

秋の夜の出來事

一年 丹アサ子

昨夜、事、家の風呂に入る時、手拭をさげて妹と二人で外へ出た。何時もの様に空を見たら澤山の星がある所には集りある所には散らばつて、光つてゐる。ぢつと見てゐると、清い星に魂をうばはれたやうに、ぼんやりしてしまふ。いつまでも清い星の空を見てゐたら、突然前にゐた妹が、私の體にとりついたのではつとして「どうしたの」と、言つたら「あれ」と言つて物置の側の方を指さした。何かと思つて、其の方を見たら、まるい物が二つ光つてゐるので、思はずぎごつとした。そして風呂場の方へ後ずさりし乍ら、聲に力を入れて「しつ」と言つたらすつと早く逃げていつた。それは小さい猫か犬らし

晩秋

一年 中村茂

晩秋の空にかすかに白雲が漂うてゐる。どんより鼠色に染まつた空を私は何氣なく見てゐた。ひんやりとした冷たい風が私の頰をなで去つた

長いと思つた一學期も過ぎ去つて見れば早いものである。二學期も末近くになつた。樂しいお正月も。取り殘された柿が木に唯一つしよんぼりとぶら下つてゐる。時折もちの木に雀が二三羽づつとまりにきて、枝々を飛び廻つてゐる。木々の間からかすかな日ざしが緣にさした。晩秋の景色は何となく淋しい。何處からか笛の音が關ねて來た

身邊雜唱

堀江たね子

○慰さむる言葉も知らずかなしめる君のみ胸はしりつくせども

○月たちていまだ癒えぬや御胸の深きみ傷は思ひやらるゝ

○神のさだめと思ふあきらめもくやしからむみ胸のいたみ深くしあれば

○そのかみの師の御教へはありがたく年經るまゝに身にぞしみける

潮聲硯靜抄帳

例會席上互選

川前溪谷

掃くすぐに八ッ手の花のこほれけり 香村子

湯豆ふにさむき夕餉をすましけり

湯豆ふや花林の卓に灯をうつす 武門

湯豆ふに杉箸うすくそまりけり

馬車出入はげしき門や花八ッ手 枯萍

客のなき山の小驛や花八ッ手

湯豆ふにひとりさびしもちびり酒 松堂

2月6日

△朝廷藤原成親の官を奪ふ(嘉應二)△仁德天皇の仁政(同天皇四)△パリに於て極左極右兩翼体大騷擾を起し、死者二十九、負傷者七百餘名を出す(昭和九)

ひとの日く

二日市——。
買初めに行つても、景品ばかり目當てにしてゐるやうで氣が引けるやうに感ずる。

講談

戸隱奇譚 山の怪秘 (102)

丸山寛雄作 眞木浪畫

追分走馬燈 (三)

『佐久開發記』によれば追分の宿場が開かれたのは至德元年であるとされてゐるが、最も全盛を極めたのは何んといつても、寛永時代から文政、天保の頃迄であつた

日夜をあげて文字どほりの歡樂境が、この驛路の一角に現出してゐた

明けの鳥が啼きさへすれば、茶店の草鞋は賣盡し旅籠と云ふ旅籠は滿員となつた。黑光りした遊女旅籠の段梯子は、ひつきり無しに浮き浮きした足音が往來にまで忙しなく響いてゐた

飮めや、騷げよ
今宵が限り
あすは、雲間の離れ山

切々たる哀調を帶びた馬追ひ唄、追分け節を口にする馬子達さへ、この宿場の中通りを通るときは、節も文句も殊更に哀艶にひびかすことを避けた位であつた

數ある遊女旅籠の中で、油屋は五十人にあまる遊女を擁して、主に大名附きの下役人相手の格式ある遊女屋として通つてゐた。しかし、役人のへう客も、さう每日あるわけではない。遊興代が少し張るだけで一般の客も歡迎することは勿論である

大谷瀧之丞が、こゝへ通ひ詰めて來るやうになつて未だ日は淺かつたが、金離れのいゝのか評判でもてること一方でない、そこで又瀧之丞の觸れ込みもいゝ自分は江戸のさる旗本の邸に勤めてゐたが、少し金が出來たのを機會に窮屈勤めを退いて、氣儘な街道茶屋を始めたのだといふのである

瀧之丞にしても內心甚だ愉快であつた。戸隱山荒倉嶽では近隣の山娘を弄ぶかさもなくば、柏原の宿場まで延ばして、そこの飯盛り女を樂しむ位が、關の山であつた。ところが、こゝでは眉目の相當整つた女が、揃つてゐるし、また懷中具合にしたところで存分に使ふことが出來る。全くのところ瀧之丞は、これが女日照り金日照りのしない國だと思つた

「御免よ」また今日も遊ぶよ

せ」

瀧之丞は、何時の間に、どこで仕立てたか知らないが、恐ろしく粋な黄八丈の姿で、髮や顏の手入れを忘れず輕い足どりで油屋の玄關を入つた

「おや、いらつしやいましさあどうぞ親分、これお峰や、親分をあのお二階へ」

おはぐろで齒を染めた、やり手女が、技巧たつぷりなお辭儀をして見せた

「景氣はどうだな」

瀧之丞は、するくと上るやうに拭き磨かれた正面の大段梯子を上りながら、案內の女中に應揚に訊いたいまやり手女に親分と云はれて惡くない氣持ちがしたところだ、この位の挨拶は却て親分らしく見せることになると考へたから

『はい、毎度有難う存じます、御ひゐきを受けまして御蔭樣で』

『さうか、それは重疊だの』

瀧之丞は、思はず武家言葉を出してしまつた、でも非常に上機嫌だつた、二階の廊下に出ると、足音が大きく響く、そこで瀧之丞殊更に兩肩をいからし、のつしのつしと親分氣どりで、女のあとについてゆく

途中の部屋では武家らしいのが白い女と淺酌してゐたり、行商人風な蒼白い男が、畳の上に腹ばひになりながら、繪草紙を擴げたりしてゐる、何れも後朝の別れを決しかねて、つひ引止められるまでに流連けてゐる連中だつた

瀧之丞は、二階の一番隅の見晴らしの利く部屋へ通された。宿の方でも、瀧之丞に對しては、御意に吐ふやうに萬事に氣をつけてゐるのだ

瀧之丞は、床柱の眞前に坐つて街道の景色に眼を落しながら先づ莨盆を引き寄せた

廣告

株式賣買、債權取立
合資會社 三共商事
平町大町電三六〇

平町田町
井坂醫院
電話 五五九番

星一先生 歐米歸朝歡迎茶話會

一、鄉土の大先輩星一先生昨秋十月二十五日橫濱出帆紐育に於て大成功裡に國產キニーネの生產及び輸出に關する商談を完了の後、伊太利、佛蘭西、英吉利、獨逸蘇聯邦、滿洲の各國を歷訪して出發以來六十五日目の舊冬三十日無事歸朝致しました。

二、今回この國家的事業完成に就いてもしたしく祖先に報告すべく展墓の爲め二月六日出生地錦村に參ることになりました。就いては此際新しき重要國產品の生產と其の海外雄飛に對する先生の勞を犒ひ、且つ輝やかしき成功を祝福致度又先生の歐米視察談を聽くべく左記の如く歡迎茶話會を開催致します。當日は正午後五時半開會、七時終了の豫定で御座いますれば何卒御繰合せ御臨席賜はり度此段御案內申上げます。

一、日時 二月六日午後五時半(舊正月三日)
一、場所 平町四丁目角マルトモホール
一、會費 金五十錢

發起者 星一先生後援會

追而 廣告を以て通知にかへます。會場準備の都合も有りますれば御返事相煩し度願上ます。

申込所 ホシチエンストアー平支部 ホシ藥舖 平町三丁目三〇 電話四二九番

火鉢附煉炭特賣延期

賣行良好ノ爲メ御禮トシテ、二月六日(舊正月三日)迄延期致シマス。

福島縣、宮城縣、岩手縣、茨城縣ノ一部 代理店 酒井伴城商店 電六六一
濱三郡特約店 三丁目 磐崎屋酒店 電六六三
四倉 昭和產業合資會社 電一八
地方販賣店 四丁目 菅野屋肥料店
四丁目 渡部米店
小名濱 磐崎屋本店
湯本 草野雜貨店

流行ノ下駄ト草履ハドコヨリ安イ
南町 三井ハキモノ店
電話一八一番
(小僧サン入用)

◎國民は一讀の義務を有す
簡易輸血研究所長 前川雄氏著
肺病は必ず治す!! 結核讀本
附、肋膜炎、腹膜炎 (定價金五十錢)
◎有史以來、かくの如く簡單に、短時日に該病を治して更に再發せざる方法を開かず。
◎該病にて惱みつゝあるお方は御遠慮なくお問合せ下さい。
取扱所 平町二丁目 堀藥局

新裝パイロット
舊正月奉仕
壹本金三圓以上へ
丸形・認印・無料・彫刻
壹本二圓・二圓半へ
御名入無料
期間・舊二日ヨリ十日間
五ヶ年保證・修理無料
パイロット專門特約店
角忠 佐々木商店
平紺屋町角公園前
電話二二三番
振替仙台一二二〇番

精神病科
腦脊髓病科
神經病科
郡山驛より約三十丁
安積中學より約五丁
郡山市外大槻村針生
郡山腦病院
電話九二五番
院長 醫學士 金森五郎
入院隨時

鑛業株賣出

第一鑛業株(全額拂込)五分配當
相場二拾二圓三十錢位(利廻り年一割一步强)
御報次第店員參上詳細御說明致シマス。
公社債株式現物賣買
角治株式店
福島縣平町田町五四
電話七三番

磐城代表的の土產品

山。靈峰羊羹.里。柿羊羹
海。のり羊羹 各一本金十錢
右美麗三本箱入 特價三十錢
御旅のお出入に便宜な手頃のお土產品です
小賣御希望の方お申越下さい。
製造發賣元 小川郷驛前 平屋賣店

診療科目
一、齒科一般 保存科、補綴科、繼續架工科 齒列矯正科、小兒齒科、齒槽膿漏科
一、口腔外科
一、レントゲン科
中野齒科醫院
院長 日本齒科醫學士 中野惠次
日本齒科醫學士 西川誠
平町田町(松月堂向ヒ) 電話五〇九番

春光麗かな街を埋め けふ恒例二日市の人出

客呼び＝鈴の音＝蓄音器＝露商の喚き 本町に漂ふ騒音のカクテル

昨舊元日の天候で大体見透しをつけた通り、今二日は朝來の好晴無風、絶好の買初め日和に唆られ人出も一層凄まじからうと豫想されたが、星斗爛干たる午前一二時頃から鋪装道路に下駄を鳴らす氣の早い處を皮切りに刻々人出を増し、朝飯どき一寸息を抜いて九、十時、十一時となるや、毎年の例乍ら加速度的に人渦が濃くなつて正午から一時、二時頃には、赤や黄の鉢巻きに咽喉を嗄らして客呼ぶ聲と擴聲器からここを必死と放送する蓄音器の陽氣な音律と露店商人の喚きと福引の當籤に景氣づくる引つ切り無しの鈴の音とあらゆる騒音のカクテルに掩はれた本町通りは、假令買ひ手三分に人出見物七分位の割合にせよ悉く人を以て埋められた程で松ケ岡南崖の梅が笑ひ初むる迄に春光麗かな今年の賣り出しこそ近郷近在の人を悉く吸收するに申し分無い日和であつた、今の處迷ひ子も例年程に萬引も無く至極平穩らしい

舊こそ眞の正月

漸次廢り氣味乍ら 名殘を止むる濱の舊慣

舊正月で無ければ正月の氣持ちがせぬと云ふ小名濱の昨今――豐漁續きの今年などは物凄い景氣で殊にカフエーなどはボックス滿員の賑ひ、そこで濱一流の荒つぽい場合が展開される、ステンドグラスに近代色を點景し始めた濱に在つて今尚は昔戀しの種は何と言つても初船出の時潴近くで總ての船がぞろりと揃つてして見せた經釣りの眞似事、古老に聞けば立派なものだつたと言ふが、何時とはなしに過去の夢となつてしまひ今は纔かに其の名殘りを止むるに過ぎなくなつた。次は四、五年前迄は昔通りに行はれて居たナガキリー初の船出にイの一番を切つた船は靈驗あらたかにすぎてかケチがつくと言ふので一齊に乘組み出動の用意は萬端整ひ乍ら七草頃までは華めき合って出足を純らしたものだつたが、魚市場事務所で一番船に五十圓位の補助金を出すことになつてからは何時とは無しにこの風習がなくなつてしまつた。他國からの出稼ぎ人が入り込んだせいだらう。今は漁師も元日だけを休み、二日からは働くといふ。近代文明にロックアウトされたる封建の後ろ姿は寂しい、たゞ一つ殘つて居るのは郷土色の豐かな十四日の鳥小屋丈けである

約八分通り完成した 小名濱町の工場地帶

運河開鑿の豫備工事も近く着手 驚異的な地價の奔騰振り

商港完成の途上にあり、既に平小鐵道の敷設決定を見た小名濱町では躍進都市への第一歩として先に同町西部鹿島神社の西方字林の上町有地約一萬五千坪の地帶を工場地帶と定め既に五ケ月間約八分通りの埋立を完了し、之が完成の曉は同町各所に散在する鰯工場を全部移轉せしめる筈であるが從來坪八、九錢でも殆ど荒蕪地となつて居た同所の地價は十五錢位で貸す筈、尚小名川運河開鑿の豫備工作としての同川開鑿工事は今月中旬から工費五千九百圓を投じ約五十名の勞働者を使役し二ケ月位で完成する豫定で其の他現内務省築港事務所下の海面を埋立て、現魚市場を西に大々的に擴張せんと今着々測量をなしつゝあるなど輝かしき大小名濱建設の途上にある

貧兒に着物

平窪の舊正救護

平窪小學校では從來貧困者には給食其他の方法で救護して來たが舊正月を迎へても晴着一枚買へぬ氣の毒なこれら兒童に對し同村公民學校女生徒に依賴して衣類を縫はせ近く給與する事になつたと

夫の留置に

其筋へ涙の願ひ 村で救助に決定

インチキ御札を賣り廻つて此程平署の歳末警戒網にかゝつた神谷村鎌田居住渡邊卯之助(四〇)は目下引續き取調べを受けてゐるが、同人の留守宅には妻タネ(三五)と現在神谷小學校に通つてゐる十四才の長男を頭に乳呑兒迄五人の子供あり、一家六名は正月が來たとて一片の餅にもありつけず昨四日迄は辛じて露命を繫いでゐたが今日からは喰ふ米とてないのでタネは昨日再三に亘り同署にこの苦境を訴へたので宿直の小林警部補から神谷駐在所に電話し卯之助が釋放される迄同村役場で救濟するやう取計らつたのでタネは嬉し涙で引き下つた

日用品諸物價

平町役場調査の去月末現在主要日用品諸物價左の如く前月に比し大差ない

白米一等一キロ二一錢 二等二〇錢五 三等二〇錢 平麥一八錢 味噌一貫目五〇錢 醬油一升四〇錢 淸酒同一圓 木炭楢丸一貫目二三錢 砂糖白百匁一五錢 豚肉上四〇錢

平紹介所 去月成績

平職業紹介所に於ける去月中の成績は

	男	女	計
求人	一五二	一七	一六九
求職	五一	一二	六三

で中就職は依然鑛業界の男女一三名を筆頭に商業一〇名、戶內使用人七ヶ等が主 合計男三三名、女六名、計三九名

警官に見られねば 危く蕾を散らす處

泉村生れの小心な看護婦

泉村生れ阿波とき子(二〇)は東京市淺草區花川戶赤城看護婦會に看護婦として住込み同町小川病院に派出してゐたが患者の取扱に手違ひがあつた所から病院長に叱責されたので會長に申譯がないと三日夜看護婦會を無斷逃げ出し四日午前二時二十二分水戶驛に下車、死に場所を求めて徘徊してゐた處を柵町派出所員が發見看護婦會に引取方打電した

郡産外國輸出品 鰯粉末工場を見る

(上) 鴻 以 智

今から數年前迄は米國加州から仰いだものが、昭和六年から逆に米國へ輸出し昨年中の數量は統計上不明であるが、その金額米國だけで二十六萬三千圓、將來の一大輸出品となるだらうと謂ふフイシ・ミールの製造を日食小名濱分工場に覗く、全國に約十といふ稀なもの

〇

第一室は生鰯の山、一日三十噸以上の鰯が小名濱は勿論附近各漁港からトラックで運ばれる、油と血と特有の臭氣の中で一人の職工が頻りにスコップを動かして居る。第二室と境する板壁の上方とこの室の三和土にあけられた穴との間に第一エレベーター(エスカレーターのステップの間隔のある樣なもの)の中へ鰯をたゝき込むのだ。鰯は緩やかに上へ運ばれ乍ら上方から來る水で完全に洗滌される

〇

斯くして運び上げられたものは第二室(此所は蒸氣とモーターで話聲が思ふ樣に聞えない)の天井の方にあるクッカー(直徑一尺五寸、長さ五間、中の心棒は大きな螺旋になつて鰯が順々に送られその中を通つてる蒸氣で煮られる)の中を通り、その次にあるプレスで完全に油を搾られる、搾り出された油は煮汁と共に樋を通つて大きなタンクに入る、同大のタンクが二列に六十並んで居て、その中に油と汁は分離されて、石鹼の原料等になる油は石油罐に入れられる、多い時は一日四、五十本。今の所は十本位との話、一罐二圓四、五十錢といふから大きい。搾り粕の鰯は今度はクラッシャーの中で荒くダきされる、既に肉、骨、皮が一緒になつた奴がベルトコンベアーで先に通つたクッカーの下を逆に運ばれる

口論が因の立廻りで 飲み相手二名を殺傷

昨日炭都に鮮血の彩り

舊正酒の慘劇

舊正早々血腥い事件が突發、平署の神經を緊張せしめてゐる――內郷村大字綴字一の坪三綴坑出入夫佐藤丑藏(三八)は昨四日の舊元日午後五時頃同坑採炭夫芳賀千次(三三)同草野藤光(三八)の兩名から再三會飲を迫られたので同村小松川權三郎方で飲み合せた處宴酣となるや些細な事から口論喧嘩となり、丑藏は短刀樣の鋭利な兇器を以て千次の左肺部を目がけて突き刺し、更に藤光には左頭部(深さ一寸餘)に瀕死の重傷を負はせ己も左頭部並に右太股に重傷を負ひ、あたりを鮮血に染め大立廻り中急報により內郷駐在巡査が馳せつけ取り鎭める一方本署からも横山署長川島司法主任外刑事數名が急行したが左肺部をやられた千次は一行の到着と共に悲惨な斷末魔の呻きをあげた儘息絶わたので重傷の藤光を直に炭鑛病院に收容、應急手當を加へた後慘劇の實狀を聽取、加害者丑藏を本署に引致檢事局でも今早朝係官が現狀檢證に出張した

登場者數名の 複雜な喧嘩

二人殺傷事件詳報

昨徹宵取調べた結果、加害者丑藏は昨四日午前九時半頃より隣家の小松川宅で同人とさし向ひで元日酒をあおつてゐるうち同僚の草野も顔を見せ、同十時頃になつて家主の沼田安衛(四五)も來て會飲中丑藏に對し家賃の滯りを催促したので丑藏も『元日から緣起でもねエ……』とばかり傍にあつた鐵瓶を振り廻し草野も變つて誰彼と判らぬ喧嘩の最中に同じ仲間の坑夫戶田市助(三四)が來て草野を連れ出し一と先づ草野宅で休んでゐる中今回の横死者たる芳賀も訪れ喧嘩の仲裁話し中突然丑藏が姿を現し、折から再び仲裁に乘り出した草野目がけて傍にあつた刄渡七寸餘の刺身庖丁で前記の暴に出で藤光の頭部にも重傷を負はせ其場で直に逮捕された、尚川島司法主任、安藤刑事部長の一行は今五日午前十時半實地檢證のため出張した

後悔の涙に くれる丑藏

兇器の在りか判明

加害者丑松は酒氣の醒めると共に『餘り過ごしたのでこんな取り返しのつかぬ事に……』と歪んだ口つきで涙をこぼしてゐた、尚どうしたのか犯行直後は兇器の在りかが知れず新川町諸橋醫院で應急手當を受けた當の丑藏に聽いても一向判然せず少からず惱んでゐたが今早朝草野方から發見されたと

郷土の史的時事解説 (二)

白水阿彌陀堂の第二回修理

本堂宇の特別保護建造物並に內擅安置五佛像國寶各指定に就て (三)

勿 來 生

(成衡)同太郎、實平楯守(菊田又は出羽若しくは兩乘任を云ふ)安忠子、源賴義婿也(群書類從所收の一本)

以上の二文は、成衡の嫡養に入る根據を知るもので、流本岩城諸系圖に甚見する之が夫妻の記事は、正誤亂入の追文書きであるのは腸歴女述のとほりである

兎に角、清原眞衡は坂東平氏及び中央源氏から各男女の養子を聘へて之を夫婦に取り合せ、自己の名跡を讓り、奥羽に其の家運の隆大を誇り、倍々富奢を極め賴時、貞任父子の舛扯たる衣川(か)館に移つてゐたのであらう。其の館の所在に就いては古來二說あり、乃ち衣川南に方る磐井郡中泉村の一名高館を以て之に擬し、一は河北に方る膽澤郡下衣川村の之が墟阯とも云ひ、何れが着實か未だに定められぬ。恐らくは後者を推すか

併しながら眞衡は鎭守府將軍に任じられずといへ、祖父武則が之に補せられて以來、其の强大と富赫の餘習は父武貞に次いで受けて來たから、些しも夫れと異らぬ身分であつた。故に彼れの居館は鎭守府の置かれた膽澤城下か、否らねば其の附近かと思ふのが妥當であらう。何れにしても確なく、又武則が仙北郡に居つた時代の城塞も全く不詳である

一、成衡の妻は賴義の女なるも岩城系圖の德尼とは別人には時代遡り本名も不詳

一、岩城諸系圖では、德てふ女をして、初代則道(成衡隆行とも)の妻、或は後室と書き、其の出自は賴義の外に、清衡の女、妹、若しくは基衡の女、甚だしいのは秀衡の女と云ひ、其の後の關係は義家之を養女、又はに猶子に擬して、清衡に養育を託すとか、清衡更に義家に乞ふて己が養女と爲す等異說多々である

彼ひ廣濟を武家評林の如きは、永保三年、德姬を二十一歲と記してゐる

一握の豆鬼を走らす

お堂に巣くつた賽錢泥?

昨四日午後六時頃平町鎌田町地內延命地藏尊のお堂から細々と灯かげが洩れ人の氣配あるを折から節分豆撒きに出た附近民が發見、不審を抱きお堂目がけて『鬼は外』と豆を撒き散らした處急に灯りが消えたので愈々不審と近所の者を狩り集めてお堂を取卷くや中から大の男が飛び出しあたりを睨みつけると見る間に飛鳥の如く逃走、急報により平署員が馳せつけて堂內を檢べるとマントを積んだ中古の自轉車が乘りすてゝあつたのみで行方が知れず前後の模樣から元日見當ての賽錢叩き常習とにらみ手配した

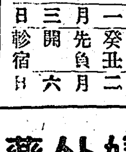
平地方ヂフテリア流行

寒暖の變化激しい爲か平地方には最近咽喉ヂフテリァ患者が各所に續發し町役場の統計でも舊臘の五名に引續いてチブス赤痢などは一名もない去月中に早くも八名の罹病者を出し中死亡したのが舊臘以來半數の六名に達してゐる

六 日

(小名濱測候所調查)

日出 六、三八 月出前 七、五三
日沒 五、〇九 月沒後 八、一八
滿潮 前六、〇五 後五、五〇 干潮 前〇、二五 後一一、五五



新二月六日 水曜 癸丑 先負 開 軫宿 舊一月三日

諸判定應需 東京市本郷區湯島四丁目五番地 高島易斷總本部 神宮館

▲一白の人 出來る丈の働きに安んじて慾深せざること▲二黑の人 一時運勢の止まることあり辛抱が大切▲三碧の人 上に逆はず下を撫育するときは德大に進む▲四綠の人 陰氣に閉されて物事快活に運ばざる日▲五黃の人 獨斷主義に流れて敬遠せらるゝ嫌ひある日▲六白の人 そしよう爭ひ事は凶なれども地味の事は宜し▲七赤の人 吉日なれど氣に緩みを生じ易し注意すべし▲八白の人 調和を破らぬ樣に注意すべし▲九紫の人 午前は大吉なれども午後は何事も手控すべし

小兒科 （入院應需）
平町南町五〇番地
志賀醫院
電話一六二番

一月星豆炭
一八キロ一袋
金八十錢
平驛前
阿部石炭商店
電話三七番

內臟外科 外科一般 花柳病科
入院隨意 自炊の便あり
平町田町赤心堂病院跡（電話四七五番）
安齊外科醫院

夜間診療
胃腸 性病 專門
內科 胃腸病科 花柳病科 性病科 皮膚科
松村胃腸性病科醫院
（平町南町電一〇七番）

產婦人科 外科 藥局
院長 木村寅次郎
醫學博士 內本宗八
藥劑師 玄番彌一
入院隨意 病室完備
平町新川町十九番地
木村病院
電話一六四番

平町田町
高久病院 （電話五三一番）
醫學士 高久忠
新潟醫學士 赤羽清
藥劑士 佐竹朝雄
內科 外科 小兒科 花柳病科 耳鼻咽喉科 レントゲン科